



画像② 「五衣唐衣裳装束」昭和3年
京都国立博物館蔵（前期展示）

特別展

みやびの色と意匠

公家服飾から見る日本美

Noble and Graceful: Looking at Japanese Traditional Costume

令和2年7月25日(土)－9月22日(火・祝)

主催・会場 奈良県立美術館

“日本の美”ここにあり一千年を超える歴史が織りなす装束の世界へようこそ。

展覧会の趣旨

人が身につける衣服は、着用者の身分や立場を示すとともに、美意識が現れる代表的な媒体です。日本の場合、束帯（そくたい）や五衣唐衣裳（いつつぎぬからぎぬも＝いわゆる十二単）などの公家装束に、また民族衣装として国際的にも認知されているきものに、このことはよく表れています。中でも公家装束は奈良時代の朝服に由来し平安時代に育まれたもので、日本の気候に順応したゆったりとした形が特徴であるとともに、色彩の組み合わせを自然の景物になぞらえる繊細な美意識の結晶でもあります。まさに日本の歴史と美意識が生んだ伝統文化の象徴なのです。

本展では奈良県立美術館が所蔵する吉川観方コレクションの作品を中心に、近府県が所蔵する作品も加えて、公家の装束を展覧します。約1300年という時間の中で発展し継承されてきた装束の歩みと、そこに展開された「みやび」の世界をご覧ください。細やかな日本の美の真髄に触れる機会となれば幸いです。

出品件数（予定）

約65件（出品件数の合計）

本展のみどころ

1. 公家服飾の華、五衣唐衣裳（いつつぎぬからぎぬも）

公家の女性の正装・五衣唐衣裳（いわゆる十二単）。本展では京都国立博物館所蔵の五衣唐衣裳が出品されます。前期（7/25～8/23）には秩父宮勢津子妃が婚儀の際に着用した一式を、後期（8/25～9/22）には大正天皇の即位礼に供奉した女官が着用した一式を展示します。

2. 天平の華やぎから平安のみやびへ、その歩みを振り返る

独特な形式に見える束帯や五衣唐衣裳の源流は、実は奈良時代の衣装にあります。本展では戦前に復元された奈良時代衣装（公益社団法人 京都染織文化協会 所蔵）を展示。唐風の装いから「みやび」の装いへ、その変貌の道筋をたどります。

3. 当館所蔵・吉川観方コレクションの公家装束を13年ぶりに出品します。

当館で公家装束をテーマにした展覧会を開催するのは平成19年に開催した館蔵品展「装束の美－王朝文化のおもかげ」以来で、多くの所蔵作品が13年ぶりの出品となります。また同じく吉川観方コレクションを所蔵する京都府（管理：京都文化博物館）からも、関連する絵画作品が出品されます。

▼展覧会の基本情報と来館案内

主催・会場	奈良県立美術館 〒630-8213 奈良県奈良市登大路町 10-6 TEL 0742-23-3968 / FAX 0742-22-7032 / テレホンサービス 0742-23-1700 美術館公式ホームページ http://www.pref.nara.jp/11842.htm 美術館公式フェイスブック https://www.facebook.com/narakenmuseum			
会期	2020年7月25日(土)～9月22日(火・祝) ※一部の作品については展示替えをいたします。 [前期] 2020(令和2)年7月25日(土)～8月23日(日) [後期] 2020(令和2)年8月25日(火)～9月22日(火・祝)			
特別協力	(公社) 京都染織文化協会			
後援(予定)	NHK奈良放送局、奈良テレビ放送株式会社、株式会社奈良新聞社、西日本旅客鉄道株式会社、近畿日本鉄道株式会社、阪神電気鉄道株式会社、奈良交通株式会社、奈良県商工会議所連合会、奈良県商工会連合会、奈良県中小企業団体中央会、株式会社南都銀行、(一社)日本旅行業協会、(一社)全国旅行業協会奈良県支部、(一社)国際観光日本レストラン協会、(一財)奈良県ビジターズビューロー、(公社)奈良市観光協会、奈良県旅館・ホテル生活衛生同業組合			
開館時間 休館日	9時～17時(入館は閉館の30分前まで) 月曜日(ただし8月10日と9月21日は開館)、8月11日			
観覧料	一般=800円、大・高生=600円、中・小生=400円 ※新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、団体割引の設定はありません ※各種割引については次の取り扱いとなります <table border="1" data-bbox="373 1211 1197 1319"> <tr> <td>ミュージアムぐるっとパス・関西2020</td> <td rowspan="2">上記観覧料から200円引</td> </tr> <tr> <td>奈良トライアングルミュージアムズの半券等の提示</td> </tr> </table>	ミュージアムぐるっとパス・関西2020	上記観覧料から200円引	奈良トライアングルミュージアムズの半券等の提示
ミュージアムぐるっとパス・関西2020	上記観覧料から200円引			
奈良トライアングルミュージアムズの半券等の提示				
	※次の方は会期中無料でご観覧いただけます ①身体障がい者手帳・療育手帳・精神障がい者保健福祉手帳をお持ちの方と介助の方1人 ②外国人観光客(長期滞在者・留学生を含む)と付添の観光ボランティアガイドの方			
交通案内	近鉄・奈良駅 1番出口から奈良公園に向かって徒歩5分 JR・奈良駅 東口バス乗り場から奈良交通バスにて5分「県庁前」下車100メートル			

▼同時開催および会期中の催し

同時開催： 連携展示 ※観覧無料	奈良の仏像海外展示報告「奈良の至宝を世界へ」 ※会場：当館1Fギャラリー 奈良県が2019年に欧州で開催した仏像展示の様子を、写真パネルや映像を通してご紹介いたします。 ・ギメ東洋美術館「古都奈良の祈り」展 ・大英博物館「奈良－日本の信仰と美のはじまり」展
会期中の催し (当館主催事業)	◆講演会「公家・女房装束と有職故実－令和に伝えられた日本服飾の美－」 講師：田中潤氏(学習院大学非常勤講師) 日時：8月23日(日)14時～(約90分)

場所：当館1Fレクチャールーム（30席・要事前申し込み ※応募者多数の場合は抽選により決定）

◆美術講座「宮中の行事と装束—『即位図』と『新嘗祭図』を例に」

講師：飯島礼子（当館主任学芸員）

日時：9月13日（日）14時～（約90分）

場所：当館1Fレクチャールーム（30席・要事前申し込み ※応募者多数の場合は抽選により決定）

[講演会・美術講座の参加申し込みについて]

聴講のお申し込みは7月25日（土）からEメールまたは電話にて受け付けます。申し込み期間・方法の詳細は当館ホームページ（<http://www.pref.nara.jp/11842.htm>）などをご確認ください。

◆当館学芸員によるギャラリートーク

日時：8月1日・15日・29日、9月12日（いずれも土曜日）14時～・展示室にて

申し込み不要、開始時間に合わせて展示室前にお集まりください

※上記イベントへの参加には観覧券が必要です。

※新型コロナウイルス感染症の拡大状況により、イベントの実施・内容を変更する可能性があります。

取材のご依頼

広報に関するお問い合わせ

奈良県立美術館（展覧会企画担当：主任学芸員 飯島礼子）

〒630-8213 奈良市登大路町10-6

TEL 0742-23-3968 FAX 0742-22-7032

museum@mahoroba.ne.jp

広報用画像リスト + 作品の一言解説

◇展覧会広報用に下記の画像を用意しております。ご希望の画像の番号（1～5）をお知らせください。

◇必ず下記の**キャプション**もご掲載ください。

ただし、ルビ（ふりがな）を付ける・付けないの判断と西暦・和暦の選択は各メディアに委ねます。

◇掲載にあたり作品部分のトリミング、文字載せはご遠慮ください。

No.	画像	キャプション	一言解説	備考
1		「袍 緋地輪無唐草文様」 (ほう あけじわなしからくさもんよう) 江戸時代（19世紀） 奈良県立美術館蔵	公家の男子の正装である「束帯」の姿で着用された袍です。袍の色は位によって決まっており、緋色は五位の男子が使用しました。	
2		「五衣唐衣裳装束」 (いつつぎぬからぎぬもしょうぞく) 秩父宮勢津子妃所用 昭和3年（1928） 京都国立博物館蔵	「十二単（じゅうにひとえ）」の呼び方でも知られる公家の女子の正装です。この装束一式は秩父宮勢津子妃が婚儀の際に着用したものです。唐衣には出身の会津松平家ゆかりの葵紋にちなんだ文様が配されています。	前期展示
3		「狩衣 紫地鴛鴦丸文様」 (かりぎぬ むらさきじおしどりのまるもんよう) 江戸時代（19世紀） 奈良県立美術館蔵	「狩衣」は狩の時に使った衣服から発達したもので、公家の男子が私的な場で着用しました。比較的制約が少ない装いなので、色や文様の種類の豊富さが見どころです。この狩衣は若い男性が着用したものです。	
4		「袿 紅地雲立涌に鸚鵡丸文様」 (うちき べにじくもたてわくにおうむのまるもんよう) 明治時代（19世紀） 奈良県立美術館蔵	公家の女子が「袿袴（けいこ）」という装いで着たものです。白小袖と袴、単を着た上に着用しました。立涌という文様の上に一對の鸚鵡を円形にデザインした文様を織り出しています。	
5		田中訥言（たなかとつげん） 「女和歌三神像」のうち 「衣通姫」（部分） (おんなわかさんしんぞうのうちそとおりひめ) 江戸時代（19世紀） 奈良県立美術館蔵	三幅対のうちの一幅。衣通姫（そとおりひめ）はその美貌から允恭天皇に寵愛されたと伝承される上代の女性です。本作では衣通姫を唐衣裳装束の姿で描写しています。	